

私たちはどこへ行くのか (2)

代表取締役 鈴木英介

現代を情報化社会と言われて久しい。前号では「情報をつかむ者が有利なポジションをとれる」と述べた。

現代社会は情報であふれている。ありすぎて、かえって必要な情報が分からなくなっている。その中には、何らかの意図をもって流される偽情報もあるだろう。偽でなくとも、大量の無用な情報を流し、重要な情報を覆い隠すという手もある。

過去には「嘘も百篇言えば本当になる」と言ってそれを実行した人もいるようだ。真偽など誰にも分からないとすると、大量の情報が溢ればその事が既成事実となりうる。「真偽は分からないけど、皆がそう言っている」

は言えないのではないか。ネット上では「億り人のなり方」などの記事もある。

資本の時代は終わりつつあるか、もう終わっている。資本は株式の形で大衆が所有する。直接株を買わなくても、銀行や保険会社、証券会社などが大衆から集めた金を株で運用する。政府や公益法人でさえ株を運用している。

もう資本は個人のものではなくなっているのだ。税制も資本を個人から引き離すために作用している。その結果、所有者から解き放たれた資本は生産要素から脱落する。そうすると唯一残る生産要素は「労働」となる。これではカール・マルクスの予

言となる。最近の選挙などもあるような事もあったのではないか。

歴史区分を「封建（主義）時代」「資本（主義）時代」とすると、現代は「情報時代」と言える。情報が今ほど取りざたされる時代はない。インターネットはそれが世界規模で展開される。そこには無名の個人でもアクセスできる。そのような事は歴史上初めての事だ。それは現実の政治や経済、軍事さえ動かす。政治軍事的には偽情報は定番だ。

「封建時代」は「土地」が最も重要なものである。土地の支配権は絶対的で万能だ。「資本主

義」は「資本」つまり金が最も重要なもので、金で買えないものはない。封建時代であれば、いくら金があってもその土地内にある金は、土地の支配者のものだ。人さえ支配するのだから、その土地にいる人のポケットの金も土地の支配者のものになる。

これに対して「資本主義」では土地の所有権はその上にある動産には及ばない。ましてや人には及ばない。土地は他の「物」と同様、金で量れる単なる財産となる。

封建時代であれば土地に価格を付け、取引する事など道義に外れる事だっただろう。しかし現代では土地の価値は変動す

言と正反対だ。マルクスは他の生産要素に先んじて労働は「労働力商品」として商品となると言った。そこでの労働は「疎外された労働」として、かつての労働とは似ても似つかないものとなると言っている。

しかしマルクスの言った疎外された労働（単純労働）は現代では機械に置き換わり、労働者には頭脳労働が求められている。そしてその頭脳労働さえ、考える機械＝AIに置き換わりと人間には管理的労働かサービス労働が残される。いわゆる「一般事務」と言う仕事はなくなる運命にある。たとえ残ったとしても派遣労働に置き換わり、組織的生産の主軸からは外れる。

そこで情報時代が登場する。商品は情報のあるところに集まる。資本さえ情報によって所有者だ。個人情報価値を持つてきたのはそのためであ

る。少し前まではだれも庶民の個人情報に価値があるとは思わなかっただろう。今では名前と住所、連絡先だけでも十分な価値がある。そこに性別、年齢、嗜好などがあれば申し分ない。

情報そのものの価値が物の価値より大きくなっている。知的財産や経営、組織運営のノウハウが高く評価される時代だ。経済が大きく、複雑になればなるほどそれを媒介する情報が必要になる。ユーチューブなどには様々な情報を無名の個人があげている。その内、評価されるものは残り、不必要なものは淘汰される。

先ほど通貨の価値が下がったと言ったが、実は商品の価値も下がっている。前号で述べた3C（カー、クーラー、カラーテレビ）もそうだ。多くの商品が庶民の手の届くものになっている。生産性の向上は新発見、新技術によってなされている。それは知識によってもたらされ

る。土地が海へ、空中へと生産されれば、土地は生産要素ではなく単なる商品となる。いくら原材料費を使って作った商品でも、利用価値のないものが無価値であるように、土地も利用価値がないなら無価値となる。

その現代で「貨幣」の価値は下がり続けている。インフレーションとはその事である。私の幼少期は「百万長者」と言う言葉があった。百万円あれば大金持ちと言う意味だ。その後あつという間に「億万長者」になった。その時、億という金は個人が想像できる金ではなかった。しかし現代では1億円あつても「長者」つまり大金持ちと

る。現代ではこの知的能力の違いが格差を生んでいる。

情報弱者という言葉もある。情報から遠ざけられた者は、社会的弱者であり、経済的弱者であるという事だ。これが現代の格差の原点だ。現代社会は皆が同じスタートラインに立っているわけではない。いや、スタートラインが同じであったとしても、走る道筋が任意である以上最短距離が分かる人が有利だ。情報は自ら掴みにいかなければならない。誰からタダで与えられる情報は、所詮無価値なのだ。また有料で無価値な情報売りつけようとする輩さえいる。それらの話はあなたの存在を肯定するがゆえに耳に快く響き、うまくいかない事は他者のせいにするので分かりやすい。情報時代に生きるという事は、いくら困難があつたとしても、日々刻々自らの頭で考え、判断を繰り返していく事だと思

